

2017年版 デュプリケートブリッジの規則

順番外のプレイに関する注釈

ver 1.03 2018/11/17

仲村篤志

－ 索引 －

第45条	プレイされたカード	2
第53条	順番外のリードの受け入れ	4
第54条	表向きに出した順番外のオープニングリード	10
第55条	ディクレアラーの順番外のリード	12
第56条	ディフェンダーの順番外のリード	16
第57条	早まったリードやプレイ	18
第58条	同時に行われたリードまたはプレイ	22
第60条	違法なプレイの後のプレイ	26
実際の裁定例		28

規則の目的

規則はデュプリケートブリッジの正しい手順を定め、それからの逸脱による損害に対して、相当の補償をすることを目的としている。

また、規則は違反行為を処罰することではなく、違反行為によって非反則者が損害を被った状況を調整することを目的としている。

(デュプリケートブリッジの規則 前書きより)

第45条 プレイされたカード

- A. ハンドからのカードのプレイ
- B. ダミーからのカードのプレイ
- C. プレイしたとみなされるカード
- D. ダミーが指定されていないカードを取り上げたとき
- E. トリックにプレイされた5枚目のカード
 - 1. ディフェンダーがトリックに対してプレイした5枚目のカードは、ディレクターがリードとみなして第53条または第56条を適用しない限り、第50条に従いペナルティカードになる。
 - 2. ディクレアラールがトリックに対して、ハンドまたはダミーから5枚目のカードを出したときは、ディレクターがリードとみなして第55条を適用しない限り、このカードを調整なしでハンドに戻す。
- F. ダミーがカードを指示した場合
- G. トリックを伏せること

- L45E
 - 順番外のリードを裁定するときは、『トリックにプレイされた5枚目のカード』について判定する必要がある。
 - 「5枚目のカード」を順番外のリードとして扱うときは、まずリードの意図を確認する。意図がなければ「5枚目のカード」である。ただし以下のようなケースでは順番外のリードの可能性を考慮する。
 - (1) スートにフォローしていないとき
 - (2) 現行のトリックでのリーダーでないとき
 - (3) 現行のトリックに勝ったと勘違いしている可能性があるとき（例えばAをリードしてラフされたことに気がついていないなど）
- L45E1,2
 - ディレクターが「5枚目のカード」として扱ったとき：
 - ・ ディクレアラール：ハンドに戻し特に調整はない
 - ・ ディフェンダー：メジャーペナルティカードになり第50条『ペナルティカードの処置』を適用する
 - ディレクターが「5枚目のカード」として扱わないとき、すなわち「順番外のリード」として扱ったとき：
 - ・ ディクレアラール：第55条『ディクレアラールの順番外のリード』を適用し、どちらのディフェンダーも「順番外のリードを」受け入れることも受け入れないこともできる。
 - ・ ディフェンダー：第53条『順番外のリードの受け入れ』および第56条『ディフェンダーの順番外のリード』を適用する。

第53条 順番外のリードの受け入れ

A. 正しいリードとして扱われる順番外のリード

1 3 トリック目より前に^{*17}表向きになった順番外のリードはすべて正しいリードとして扱うことができる（ただし、第4 7条E項1参照）。順番外のリードは、ディクレアラーまたはどちらかのディフェンダーが、意思を表明することで受け入れたり、違法なリードの次の順番のハンドからプレイが行われると、正しいリードになる（ただし、本条B項参照）。このような受け入れまたはプレイがなかった場合は、ディレクターは正しいハンドからリードするよう要求する（さらに第4 7条B項参照）。

B. 違法なリードの後に正しいリードをした場合

本条A項に関連して、順番外のリードをしたプレイヤーの対戦相手がリードする正しい順番だった場合、この対戦相手は反則行為の起こったトリックに対して正しいリードをすることができ、このカードは違法なリードに続いてプレイしたとはみなさない。この場合、正しいリードが成立し、このトリックに間違っただけでプレイしたカードはすべて取り消すことができる。ただし、第1 6条C項を適用する。

C. ディクレアラーの違法なリードに対して間違っただけの順番のディフェンダーがカードをプレイした場合

ディクレアラーがハンドまたはダミーから順番外のリードを行い、その右側のディフェンダーが違法なリードに続いてプレイした場合（ただし、本条B項参照）、このリードが成立して第5 7条を適用する。

L53A

○第4 7条E項1「対戦相手がリードまたはプレイの順番であるとプレイヤーに間違っただけで教えた場合」

プレイする順番を間違っただけで教えたときは、プレイを取り消す。順番外のプレイのLHO（順番を間違っただけで教えた側）は順番外のプレイを受け入れることはできない。第1 6条C項より下記のとおり扱う

- ・間違っただけで教えた側 反則者
- ・順番外のプレイをした側 非反則者

○第4 7条B項『違法なプレイの訂正』

○第5 5条A項よりディクレアラー側の順番外のリードに対して、どちらのディフェンダーでも、受け入れることについても、受け入れないことについても、表明できる。ただし第1 0条C項2より相談してはならない。

○ディフェンダーが相談してしまったときは、調整する権利がなくなるので取り消すことができない、順番外のリードを成立させる。

○2人のディフェンダーの意見が食い違った場合は順番外のリードの次の人の意見が優先される。早く言った方ではないことに留意する。

○伏せて出された順番外のオープニングリードは第4 1条A『オープニングリードを伏せて出す』よりディレクターが取り消せば良い。

○オープニングリードではなく伏せて出されたリードは第4 5条C項1よりパートナーにカードの表が見えていないのでプレイしたとはみなさず、正しいディフェンダーからリードさせる。

○ディフェンダー側の順番外のリードに対しては、ディクレアラーが受け入れるかどうかを決める。ダミーが受け入れることはできない。受け入れないとき、順番外のリードはメジャーペナルティカードになる。

（続く）

^{*17} 1 3 トリック目の順番外のリードは取り消さなければならない。

第53条 順番外のリードの受け入れ（再掲）

A. 正しいリードとして扱われる順番外のリード

1 3 トリック目より前に^{*17}表向きになった順番外のリードはすべて正しいリードとして扱うことができる（ただし、第4 7条E項1参照）。順番外のリードは、ディクレアラーまたはどちらかのディフェンダーが、意思を表明することで受け入れたり、違法なリードの次の順番のハンドからプレイが行われると、正しいリードになる（ただし、本条B項参照）。このような受け入れまたはプレイがなかった場合は、ディレクターは正しいハンドからリードするよう要求する（さらに第4 7条B項参照）。

B. 違法なリードの後に正しいリードをした場合

本条A項に関連して、順番外のリードをしたプレイヤーの対戦相手がリードする正しい順番だった場合、この対戦相手は反則行為の起こったトリックに対して正しいリードをすることができ、このカードは違法なリードに続いてプレイしたとはみなさない。この場合、正しいリードが成立し、このトリックに間違ってプレイしたカードはすべて取り消すことができる。ただし、第1 6条C項を適用する。

C. ディクレアラーの違法なリードに対して間違った順番のディフェンダーがカードをプレイした場合

ディクレアラーがハンドまたはダミーから順番外のリードを行い、その右側のディフェンダーが違法なリードに続いてプレイした場合（ただし、本条B項参照）、このリードが成立して第5 7条を適用する。

L53A ○オープニングリードではない順番外のリードについては第4 5条E項『トリックにプレイされた5枚目のカード』について確認する必要がある。

L53B ○第1 6条C項『取り消したコールやプレイから得た情報』
○順番外のリードに対して、本来リードすべきプレイヤーがプレイしたときは、本条A項とB項のどちらを適用するか判断するため、プレイの意図がフォローのつもりかリードのつもりなのかを確認する。

(1) フォローのつもりなら、本条A項より順番外のリードを受け入れたことになる。

(2) リードのつもりなら、本条B項より順番外のリードはハンドに戻しペナルティカードにはならない。本来リードすべきプレイヤーのリードが成立する。

○本来リードすべきプレイヤーが反則者側だったときは本条B項を適用しない。具体的な例をあげる。

ディクレアラー：S

順番外のリード：W♠K

本来のリード：E♥A

Eの♥Aが絶望的に遅く第5 8条『同時に行われたリードまたはプレイ』を適用できなかったとする。このときディクレアラーに下記の選択肢を説明する。

- (1) ♠Kリードを受け入れる。♥Aはメジャーペナルティカード。
- (2) ♠Kリードを受け入れず、♥Aリードを受け入れる。
♠Kはメジャーペナルティカード。
- (3) ♠Kリードを受け入れず、♠リードの要求をする。Eは♠をリードし♥Aはメジャーペナルティカード。Wの♠Kはハンドに戻し好きな♠がプレイできる。

（続く）

^{*17} 1 3 トリック目の順番外のリードは取り消さなければならない。

第53条 順番外のリードの受け入れ（再掲）**A. 正しいリードとして扱われる順番外のリード**

1 3 トリック目より前に^{*17}表向きになった順番外のリードはすべて正しいリードとして扱うことができる（ただし、第47条E項1参照）。順番外のリードは、ディクレアラ側またはどちらかのディフェンダーが、意思を表明することで受け入れたり、違法なリードの次の順番のハンドからプレイが行われると、正しいリードになる（ただし、本条B項参照）。このような受け入れまたはプレイがなかった場合は、ディレクターは正しいハンドからリードするよう要求する（さらに第47条B項参照）。

B. 違法なリードの後に正しいリードをした場合

本条A項に関連して、順番外のリードをしたプレイヤーの対戦相手がリードする正しい順番だった場合、この対戦相手は反則行為の起こったトリックに対して正しいリードをすることができ、このカードは違法なリードに続いてプレイしたとはみなさない。この場合、正しいリードが成立し、このトリックに間違ってプレイしたカードはすべて取り消すことができる。ただし、第16条C項を適用する。

C. ディクレアラ側の違法なリードに対して間違った順番のディフェンダーがカードをプレイした場合

ディクレアラ側がハンドまたはダミーから順番外のリードを行い、その右側のディフェンダーが違法なリードに続いてプレイした場合（ただし、本条B項参照）、このリードが成立して第57条を適用する。

- L53C ○ディクレアラ側が順番外のリードを行い、逆回りにディフェンダー側がプレイしたときは順番外のリードを受け入れたことになる。ディフェンダーのプレイはパートナーの順番を飛ばしたことになる、第57条『早まったリードやプレイ』を適用する。
- ただし逆回りにプレイしたディフェンダーが本来リードする順番で、実際にリードのつもりだったならば本条B項を適用する。

^{*17} 1 3 トリック目の順番外のリードは取り消さなければならない。

第54条 表向きに出した順番外のオープニングリード

順番外のオープニングリードが表向きにされ、反則者のパートナーがリードを伏せて出しているときは、ディレクターは伏せて出したリードを取り消すよう命じる。さらに：

A. ディクレアラールがハンドを広げる場合

表向きの順番外のオープニングリードの後、ディクレアラールは自分のハンドを広げることができ、そのときはダミーになる。ディクレアラールがハンドを広げ始め、それによってカードが1枚でも見えたときは、ハンドをすべて広げなければならない。ダミーがディクレアラールになる。

B. ディクレアラールがリードを受け入れる場合

ディフェンダーが順番外のオープニングリードを表向きにしたときは、ディクレアラールは第53条で定めたとおり、この違法なリードを受け入れ、第41条に従ってダミーを広げることができる。

1. このトリックに対する2番目のカードはディクレアラールのハンドからプレイする。
2. ディクレアラールがこのトリックに対する2番目のカードをダミーからプレイしていたときは、リボークの訂正を除き、ダミーのカードを取り消すことはできない。

C. ディクレアラールがリードを受け入れなければならない場合

ディクレアラールがダミーのカードの一部を見ることができたかもしれないときは（ダミーがオークション中に見せ、第24条の対象だったカードを除く）、リードを受け入れなければならない、ディクレアラール予定者がディクレアラールになる。

D. ディクレアラールがオープニングリードを拒否した場合

ディクレアラールはディフェンダーに表向きに出した順番外のオープニングリードを取り消すよう要求することができる。この取り消したカードはメジャーペナルティカードになり、第50条D項を適用する。

E. 間違った側によるオープニングリードの場合

ディクレアラール側のプレイヤがオープニングリードを行おうとした場合は、第24条を適用する。

- L54 ○伏せて出された順番外のオープニングリードは第41条A『オープニングリードを伏せて出す』よりディレクターが取り消せばよい。
- L54B ○第53条『順番外のリードの受け入れ』
- L54D ○第50条D項『メジャーペナルティカードの処置』
- L54B,D ○順番外のオープニングリードに対するディクレアラールの選択肢はメジャーペナルティカードの裁定と合わせて下記の5種類になる。選択肢のすべてを説明する。
- (1) 受け入れてダミーになる。
 - (2) 受け入れてダミーを開き2番目のカードをハンドからプレイする。
 - (3) 受け入れず要求をする。ペナルティカードはハンドに戻る。
 - (4) 受け入れず禁止をする。ペナルティカードはハンドに戻る。
 - (5) 受け入れず要求も禁止もしない。ペナルティカードは引き続きメジャーペナルティカードとして扱う。
- L54C ○第24条『オークション中に見せたり、リードしたカード』
- ディフェンダーの「お願いします」の声で状況を見ずにダミー予定者がハンドを広げ出すことがある。そのときカードが1枚でも見えた可能性があるとき（実際に見えたかどうかは関係ない）は、本条B項1を適用しダミーをすべて広げてからディクレアラールは2番目のカードをプレイする。
- L54E ○ディクレアラール側が間違えてオープニングリードしてしまうこともある。そのときは第24条『オークション中に見せたり、リードしたカード』で扱うため、ディフェンダーに受け入れる権利はない。オープニングリードすべきディフェンダーからリードし、それ以上の調整はない。
- さらに次のディフェンダーがダミーになったと勘違いしてカードを広げてしまったとき、見えたカードについては第24条を適用する。ディフェンダー側なので調整がある。

第55条 ディクレアラールの順番外のリード

A. ディクレアラールのリードが受け入れられた場合

ディクレアラールが自分またはダミーのハンドから順番外のリードをした場合、どちらのディフェンダーも第53条に定めるとおり、このリードを受け入れることも、取り消しを要求することもできる（間違っただ情報による順番外のリードの場合は第47条E項1参照）。ディフェンダーの2人が異なる選択をした場合、違法なリードをしたハンドのLHOが表明した選択が優先する。

B. ディクレアラールがリードの取り消しを要求された場合

1. ディフェンダーがリードする順番にディクレアラールが自分またはダミーのハンドからリードし、ディフェンダーのどちらかからこのリードの取り消しが要求された場合、本条A項に定めるとおり、ディクレアラールは間違っただリードしたカードを取り消して、元のハンドに戻る。それ以上の調整はない。
2. ディクレアラールが自分のハンドかダミーからリードする順番のときに間違っただハンドからリードし、ディフェンダーのどちらかからこのリードの取り消しが要求された場合、本条A項に定めるとおり、ディクレアラールは間違っただリードしたカードを取り消して、リード権のあるハンドからリードしなければならない。

C. ディクレアラールが情報を得た可能性がある場合

ディクレアラールが採用したプレイの方針が、自身の反則行為から得た情報に基づくものである可能性がある場合は、スコアを調整することがある、第16条を適用する。

- L55A
- 伏せて出された順番外のオープニングリードは第41条A『オープニングリードを伏せて出す』よりディレクターが取り消せばよい。
 - 第53条『順番外のリードの受け入れ』
 - 第47条E項1「対戦相手がリードまたはプレイの順番であるとプレイヤーに間違っただ教えた場合」
 - ディクレアラール側の順番外のリードに対して、どちらのディフェンダーでも、受け入れることについても、受け入れないことについても、表明できる。ただし第10条C項2より相談してはならない。
 - ディフェンダーが相談してしまったときは、調整する権利がなくなる、順番外のリードを成立させる。
 - 2人のディフェンダーの意見が食い違っただ場合は順番外のリードの次の人の意見が優先される。早く言っただ方ではないことに留意する。
 - 第53条A項より、受け入れがないときは正しいハンドからリードさせる。
 - 注意すべき裁定として、ダミーにウィナーがあるがエントリーが全くなかつただとする。ディクレアラールは間違えてリード権のないダミーにリードを指示し、次のディフェンダーがプレイしてしまっただため受け入れたことになることがある。

このときディフェンダーのスコアは成立させる。ただしディクレアラールは順番外のリードを指示する時点でダミーからのリードが対戦相手に損害を与える可能性に気が付くことができると考える。実際に気づいていたかどうかは関係ない。従って、第72条C項によりディクレアラール側には調整スコアを与える。

（続く）

第55条 ディクレアラーの順番外のリード（再掲）

A. ディクレアラーのリードが受け入れられた場合

ディクレアラーが自分またはダミーのハンドから順番外のリードをした場合、どちらのディフェンダーも第53条に定めるとおり、このリードを受け入れることも、取り消しを要求することもできる（間違っただけによる順番外のリードの場合は第47条E項1参照）。ディフェンダーの2人が異なる選択をした場合、違法なリードをしたハンドのLHOが表明した選択が優先する。

B. ディクレアラーがリードの取り消しを要求された場合

1. ディフェンダーがリードする順番にディクレアラーが自分またはダミーのハンドからリードし、ディフェンダーのどちらかからこのリードの取り消しが要求された場合、本条A項に定めるとおり、ディクレアラーは間違っただけでリードしたカードを取り消して、元のハンドに戻る。それ以上の調整はない。
2. ディクレアラーが自分のハンドかダミーからリードする順番のときに間違っただけでハンドからリードし、ディフェンダーのどちらかからこのリードの取り消しが要求された場合、本条A項に定めるとおり、ディクレアラーは間違っただけでリードしたカードを取り消して、リード権のあるハンドからリードしなければならない。

C. ディクレアラーが情報を得た可能性がある場合

ディクレアラーが採用したプレイの方針が、自身の反則行為から得た情報に基づくものである可能性がある場合は、スコアを調整することがある、第16条を適用する。

（続き）

L55B ○リードが受け入れられなかったとき、ディクレアラーは同じスートのリードをする必要はない。また同じカードをプレイする必要もない。

L55C ○Sのディクレアラーは、ハンドエントリーに苦慮しフィネスをあきらめてダミーの♠Aをキャッシュしたが、それは順番外のリードだった。

Wは♠Aキャッシュに損害はないと考えて受け入れを表明したがEは受け入れないことを表明した。そのためディレクターは♠Aを取り消しディクレアラーのハンドからのプレイを指示した。

ここでディクレアラーはEの拒否に♠Kシングルトンの可能性について思い当たってしまった。ハンドには♠Q J 6があったが♠6をリードし♠Aをとってみるとまさしく♠Kはシングルトンだった。

このようなときはスコアを調整する。

第56条 ディフェンダーの順番外のリード

順番外のリードが表向きに出されたとき、ディクレアララーは：

- A. 第53条に定めるとおり、この違法なリードを受け入れることができる。または、
- B. ディフェンダーに表向きになった順番外のリードを取り消すよう要求することができる。取り消したカードはメジャーペナルティカードになり第50条D項を適用する。

- L56 ○ダミーに受け入れる権利はない。
- L56B ○第50条D項『メジャーペナルティカードの処置』
 - 順番外のリードが受け入れられないときはメジャーペナルティカードとなる。そのとき反則者のパートナーがリードする順番ならば、4つの選択肢を説明する。
順番外のリードを
 - (1) 受け入れる。
 - (2) 受け入れず要求をする。ペナルティカードはハンドに戻る。
 - (3) 受け入れず禁止をする。ペナルティカードはハンドに戻る。
 - (4) 受け入れず要求も禁止もしない。ペナルティカードは引き続きメジャーペナルティカードとして扱う。
 - 要求や禁止に応えられないときは、第59条『要求されたとおりにリードまたはプレイできない場合』より任意のカードがプレイできる。

第57条 早まったリードやプレイ**A. 次のトリックへの早まったリードやプレイ**

ディフェンダーが、パートナーが現行のトリックにプレイする前に次のトリックに対してリードしたり、パートナーがプレイする前に順番外にプレイしたときは、このようにリードしたりプレイしたカードはメジャーペナルティカードになる。さらにディクレアララーは以下から1つを選ぶ。

1. 反則者のパートナーに現行のトリックにリードされたスートで持っている一番高いカードのプレイを要求する。
2. 反則者のパートナーに現行のトリックにリードされたスートで持っている一番低いカードのプレイを要求する。
3. 反則者のパートナーにディクレアララーが指定する他のスートのカードのプレイを要求する。
4. 反則者のパートナーにディクレアララーが指定する他のスートのカードのプレイを禁止する。

B. 反則者のパートナーが調整に応じられない場合

反則者のパートナーがディクレアララーの選んだ調整に従えないときは（本条A項参照）、第59条に定めるとおり、任意のカードをプレイすることができる。

（続く）

- L57A** ○パートナーの順番を飛ばしてプレイしたカードはメジャーペナルティカードである。パートナーの順番を飛ばしてプレイするケースは以下のとおり。
- (1) 2番手のディフェンダーがプレイする前に4番手のディフェンダーがプレイした。
 - (2) 3番手か4番手のディフェンダーがプレイする前にもう1人のディフェンダーが次のトリックのリードをした。
- ディクレアララーに、反則者のパートナーには以下の制限があることを説明する。
- (1) 一番高いカードの要求
 - (2) 一番低いカードの要求
 - (3) 任意のスートの要求（2017年規則で追加された）
 - (4) 任意のスートの禁止
- L57B** ○第59条『要求されたとおりにリードまたはプレイできない場合』

第57条 早まったリードやプレイ（続き）

C. ディクレアラールかダミーがプレイしていた場合

1. ディフェンダーはパートナーより前にプレイしたとしても、ディクレアラールが両方のハンドからプレイしていたときには調整を受けることはない。なおディクレアラールの指定（または示唆^{*14}）があるまでダミーからプレイされたとはみなされない。
2. ディフェンダーはパートナーより前にプレイしたとしても、RHOがプレイする前にダミーが自発的に早まってカードを選んだときと、ダミーがカードをプレイしたことを違法に示唆したときには、調整を受けることはない。
3. ディクレアラールがハンドまたはダミーから早まってプレイ（リードではない）すると、プレイされたカードになり、合法なら取り消すことはできない。

D. RHOの順番での早まったプレイ

ディフェンダーがRHOの順番でトリックにプレイ（リードではない）しようとしたときには、第16条を適用することがある。このカードがトリックに合法的にプレイできるならば、正しい順番にプレイしなければならない、そうでないときにはメジャーペナルティカードになる。

- L57C1 ○・Sのディクレアラールがハンドからリードした。
 ・Wのディフェンダーはまだプレイしていない。
 ・ディクレアラールはダミーにプレイを指定した。
 このときはEのディフェンダーがWより先にプレイしたとしても調整はない。
- L57C2 ○ここで述べているRHOはダミーから見て右側。
 ○・Sのディクレアラールがハンドからリードした。
 ・Wのディフェンダーはまだプレイしていない。
 ・ダミーが勝手にプレイした。
 このときはEのディフェンダーがWより先にプレイしたとしても調整はない。
- L57C1,2 ○ダミーのカードがシングルトンでも、指定やダミーの示唆などがなければディフェンダーによる早まったプレイである。本条D項を適用する。
- L57C3 ○ディクレアラールはダミー♠AQに向かって♠6をリードした。次のディフェンダーがプレイする前にダミーに♠Qを指定したとする。ダミーの手前のディフェンダーが♠Kをプレイしたとしてもダミーの♠Qを取り消すことはできない。
- L57D ○ディフェンダーによる1人飛ばしのプレイ。リボークでない限りプレイしなければならない。

^{*14} 身振りやうなずきなどによる。

第58条 同時に行われたリードまたはプレイ**A. 2人のプレイヤーが同時にプレイした場合**

他のプレイヤーの合法的リードやプレイと同時に進められたリードやプレイは、合法的なものに続いて進められたものとみなす。

B. 1人のプレイヤーがハンドから同時に複数のカードを出した場合

プレイヤーが同時に2枚以上のカードをリードまたはプレイした場合：

1. カードの表が1枚だけ見えたときは、そのカードをプレイし、残りのカードはすべてハンドに戻してそれ以上の調整はない（第47条F項参照）。
2. カードの表が2枚以上見えたときは、反則したプレイヤーがプレイするカードを指定する。反則者がディフェンダーのときは、見えた残りのカードはペナルティカードになる（第50条参照）。
3. 反則したプレイヤーが見せたカードを取り消した後、このカードに引き続いてプレイした対戦相手はこのプレイを取り消し、調整なしで別のカードに入れ換えることができる（ただし、第16条C項参照）。
4. 双方が次のトリックに対してプレイするまで2枚以上のカードをプレイしたことに気づかなかったときは、第67条を適用する。

- L58A** ○2つの行動が完全に一致することはないと規則はみなしている（1987年規則の注釈より）。
- 同時にプレイしたとみなしたときは合法的プレイに続いて違法なプレイが行われたものとして該当する条項を適用する。通常行われないプレイになったとしても関知しない。
- L58B** ○一度に複数のカードをプレイしてしまったときは、見えたカードが1枚だけかどうかをまず調べる。
- カードが重なっていることはわかったとしても、何のカードかわからないカードについては表が見えたとは扱わない。
- L58B1** ○見えたカードが1枚だけのときは、そのカードがプレイされたカードになる。隠れているカードの方をプレイしたかったとしても、自分で出したカードの表が見えてしまった以上、第45条C項1によりプレイされたカードとみなされる。第47条F項『その他の取り消し』より規則で定められたときを除いて取り消すことができない。
- 隠れているカードはハンドに戻すが見えないように極力注意する。それでもディフェンダーのカードが見えてしまったときはペナルティカードになる。
- L58B2** ○第50条『ペナルティカードの処置』。ディフェンダーの見えたカードが複数枚のとき、プレイに選ばれずに残ったカードがローカードで1枚でプレイの意図がないならばマイナーペナルティカードになる。そうでないならばメジャーペナルティカードである。
- ディレクターはまずプレイの意図があったカードがどれであるかを確認し、そのカードをプレイすると残ったカードにどのような制限があるかを説明し、プレイヤーに選択させる。プレイヤーはプレイの意図があったカードをプレイしなくてもかまわない。

（続く）

第58条 同時に行われたリードまたはプレイ（再掲）**A. 2人のプレイヤーが同時にプレイした場合**

他のプレイヤーの合法的リードやプレイと同時に進められたリードやプレイは、合法的なものに続いて進められたものとみなす。

B. 1人のプレイヤーがハンドから同時に複数のカードを出した場合

プレイヤーが同時に2枚以上のカードをリードまたはプレイした場合：

1. カードの表が1枚だけ見えたときは、そのカードをプレイし、残りのカードはすべてハンドに戻してそれ以上の調整はない（第47条F項参照）。
2. カードの表が2枚以上見えたときは、反則したプレイヤーがプレイするカードを指定する。反則者がディフェンダーのときは、見えた残りのカードはペナルティカードになる（第50条参照）。
3. 反則したプレイヤーが見せたカードを取り消した後、このカードに引き続いてプレイした対戦相手はこのプレイを取り消し、調整なしで別のカードに入れ換えることができる（ただし、第16条C項参照）。
4. 双方が次のトリックに対してプレイするまで2枚以上のカードをプレイしたことに気づかなかったときは、第67条を適用する。

L58B (続き)

L58B3 ○複数枚のカードが出されたとき、そのうち1枚のカードを見てプレイが続くことがある。実際には複数のカードが見えていたのなら本条B項2よりプレイされるカードが選ばれる。このとき続く対戦相手はカードを出し直すことができる。続いてプレイしたプレイヤーの取り消したカードはハンドに戻す。取り消したカードには第16条C項『取り消したコールやプレイから得た情報』が適用される。取り消したカードは、取り消した側には正当な情報でありもう一方の側には不当な情報である。

L58B4 ○複数枚のカードのプレイに気がつかず双方の側が次のトリックにプレイしたときは第67条『過不足のあるトリック』のB項2を適用する。
 ○プレイが続いているのでプレイヤーはそのトリックに1枚しかプレイされていないと認識しているはずである。重なったカードが見えないよう極力注意して確認する。
 ○見えていないカードはハンドに戻すが、一貫してハンドにあったものとして扱う。リボークの可能性については最後に判定する。
 ○複数のカードが見えたとき、プレイに選ばれなかったカードはペナルティカードになる。ペナルティカードはマイナーの可能性もある。

第60条 違法なプレイの後のプレイ**A. 違反行為後のカードのプレイ**

1. 順番外のまたは早まったリードまたはプレイの後、調整が行われる前にLHOがプレイすると、この反則に対して調整を受ける権利を失う。
2. 調整を受ける権利を失うと、違法なプレイは順番通りとみなされる（第53条B項を適用するときを除く）。
3. 反則側に以前からペナルティカードをプレイする義務や、リードまたはプレイを制限される義務がある場合は、次のトリック以降に引き続きこの義務を負う。

B. ディクレアラが要求されたリードをする前にディフェンダーがプレイしたとき

ディクレアラがどちらかのハンドからの順番外のリードの取り消しを要求された後、ディクレアラが正しいハンドからリードする前にディフェンダーがカードをプレイしたときは、このディフェンダーのカードはメジャーペナルティカードになる（第50条参照）。

C. 調整を行う前に反則側がプレイしたとき

調整を行う前に反則側のメンバーがプレイしたときは、そのプレイも調整の対象となることがあり、非反則側の権利が失われることはない。

- L60A1,2** ○ 順番外のプレイに続いて反則者の次のプレイヤがプレイすると受け入れたことと同様になる。
- 第53条B項『違法なリードの後に正しいリードをした場合』
- L60A3** ○ 違法なプレイの受け入れ等でペナルティカードの権利が行使されなかったときでも、ペナルティカードはなくなる。次のトリック以降で引き続きペナルティカードの制限を受ける。
- L60B** ○ 第50条は「ペナルティカードの処置」
- 具体例で状況の解説を試みる。
- (1) Sのディクレアラにリード権がある。
 - (2) ダミーにリードを指示した。
 - (3) Wは本来のディクレアラからのリードを求めた。
 - (4) ハンドからのリードを考えている間になぜかEが先ほどのダミーへの指示に対してプレイしてしまった。
 - (5) Eのプレイにリードの意図はなく、パートナーの順番を飛ばしたディフェンスは違法なプレイである。ただし第57条A項「次のトリックに対する早まったリードやプレイ」は適用しない。
 - (6) 従ってWに対してリードしたスートの最も高いカードや低いカードなどの要求はできず、メジャーペナルティカードとしてだけ扱う。

順番外のプレイの裁定

順番外のプレイについての条文は、込み入った状況も想定して難解な文章が多いので具体例を解説する。実際に起きる多くの裁定は単純で自動的なものである。まず、以下のことを確認する。

- (1) 順番外のオープニングリードか
- (2) オープニングリードではない順番外のリードか
- (3) 「トリックにプレイされた5枚目のカード」か
- (4) ディクレアラ側か
- (5) ディフェンダーならばパートナーの順番を飛ばしているか

(a) 「トリックにプレイされた5枚目のカード」:

○第45条E項を適用する。ディフェンダーならメジャーペナルティカードである。ディクレアラ側ならハンドに戻し調整はない。

(b) ディクレアラ側:

- 順番外のリードのとき 第55条
どちらのディフェンダーも受け入れることができる。「順番外のコール」では反則者の左手に受け入れる権利があるので混同しないようにする。受け入れないときはカードがハンドに戻りそれ以上の調整はない。
- 順番外のプレイのとき 第57条
プレイされたカードになる。受け入れる受け入れないの選択肢はなく、リボークでないなら取り消すことはできない。

(c) ディフェンダー側: まず、パートナーの順番を飛ばしたかどうかと順番外のリードかどうかを確認する。いずれの裁定も受け入れられないときには、ディフェンダーが出した順番外のカードはメジャーペナルティカードになる。ディクレアラ側には全てを含んだ選択肢を説明する。

- 飛ばした、オープニングリードのとき 第54条
5つの選択肢を説明する。受け入れてダミーになる、受け入れてプレイする、受け入れず要求・禁止、制限せずメジャーペナルティカード。
- 飛ばした、それ以外のリードのとき 第56条
4つの選択肢を説明する。受け入れる、受け入れず要求・禁止、制限せずメジャーペナルティカード。
- 飛ばした、リードではないとき 第57条
順番外にプレイしたカードはメジャーペナルティカード。さらに、もう一方のディフェンダーのプレイに対し4つの選択肢から制限できることを説明する。高いカード、低いカード、スートの要求・禁止。
- 飛ばしていない、順番外のリード 第56条
ディクレアラは受け入れることができる。受け入れなければメジャーペナルティカード。
- 飛ばしていない、リードではないとき 第57条
メジャーペナルティカード。

順番外のオープニングリードの裁定例

(Sがディクレアラ側予定者、順番外のオープニングリードは♠6)
※内容が伝わるのが重要である。一例であることを考慮してプレイヤーに合わせて工夫すること。

○順番外のオープニングリードでディレクターが呼ばれた
「順番外のオープニングリードではSに5つの選択肢があります。」
「まず受け入れてご自分がダミーになること。」
「次に受け入れて今ダミーを開いて、2番手に自分のハンドからプレイすること。」
「そして受け入れずに、♠リードの要求か禁止を選ぶこと」

「要求か禁止を選ぶと♠はEのハンドに戻ります、また禁止はリード権が離れるまで続きます。」

※「♠の6は」と言うほうが具体的でわかりやすい。ペア戦などでは情報がまわりに伝わらないように配慮する。

「最後に要求も禁止もせずにメジャーペナルティカードとして机の上に置いておくこと。そのときのWは好きなカードがリードできます。」

「以上5つのうちからお選びください。」

○禁止された

「Eは♠をハンドに戻してください。」

「Wはリード権が離れるまで♠が禁止されました。♠以外をリードしてください。」

- Wの♡Aリードが勝った

「♠の禁止が続いています。♠以外をリードしてください。」

- リード権が離れるまでテーブルに留まる

「これ以上の制限はありません。」

○受け入れられず要求も禁止もされなかった

「Eの♠はメジャーペナルティカードです。ディスカードを含めてプレイできる最初の機会にプレイしてください。」

「Wは好きなカードをリードしてください。第2トリック以降でペナルティカードが机の上にまだあって、Eがリード権を得たときはリードに制限があります。」

- ペナルティカードがなくなるまでテーブルに留まる